

【番外編】 祖父母の勇気づけが、困っている親を助けます

結婚するまで別々の人生を歩んできた男女が夫婦になると、お互いの生活文化や価値観（例えば箸の上げ下ろしや食事のタイミング、お金の使い方などなど）の差異に驚くことがあると思いますが、とりわけ、親となり子供を育てていると、教育の仕方についてはお互いになかなか譲れないものだと思います。

中には、自分の親が自分に対して行った子育てとは正反対の子育てをすることを目指している人もいます。また、気づかないうちに自分の親の価値観をそのまま受け継いで親になった人や、色々な影響を混ぜ合わせて親になった人もいることでしょう。

子供がある程度両親の想定内の成長を見せている場合は問題がないのですが、子供がつまずいた時、この夫婦間の価値観の差がお互いに許せないものとなり、仲良かった夫婦関係に亀裂が入っていく例をたくさん見えています。

子供は「お前たち（両親のことをこう呼ぶ子供がいるのです）のせいでこうなった！」と言い、両親は自分を責め、そして良心の呵責に耐えかねて、お互いに「あなたが～してくれなかったから、こんな風になった」と言い合います。アラアラ！

こんな時に祖父母の心配（「大変だ」「なんとかしなくちゃ」「孫をしっかり育てないと！」）が圧力となって両親に強くかかると、夫婦間の亀裂が益々ひどくなります。グルグルとお互いに非難・批判・否定し合って、解決策が見つかりません。祖父母・両親・子供の間で、負のスパイラル（悪循環）が生じます。

孫を心配するあまり、自分の子である孫の親を心配と称して責めている姿は、親が心配のあまり子を責めている姿と重なります。これでは、子育てが上手くいかず自分で自分を責めている親はますます追い詰められ、逃げ場をなくして、夫が妻を、妻が夫を、と、夫婦がお互いに責めるようになります。

おじいちゃん・おばあちゃん！

まずは、「あなたたちは親として、辛いだろうけどちゃんと向き合って頑張っているよ」などと、孫の親である自分の子を勇気づけてあげましょう。そうすると、親が元気になり、親として、つまずいている子供を勇気づけることができるようになるでしょう。こうして、非難し合う負のスパイラルから脱して親子の間に良いスパイラルが生まれ、子どもは回復していきます。家族相談の場では、このように祖父母が関わることで、まるで魔法のように、負のスパイラルから脱して問題解決に結びついていくことが多いのです。

あるお母さんは、言いました。

孫の心配を強く言うてくる自分の親に「あの子の親は、私と私の夫です。お父さんお母さんは私より先に天国に行くはずです。どうぞ天国から私たちを見守ってください。お願いします」と。

このお母さんは、自分の親にとっても素直で従順で、若い頃は親に反抗したことがなかったそうですが、自分の子供がつまずいて初めて親からの自立を果たしたと言っていました。その後、そのお母さんは勉強し直して仕事に就き、子供は新時代の仕事（IT関係）に就いているそうです。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐに実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。



東京都教育庁「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」ホームページ